

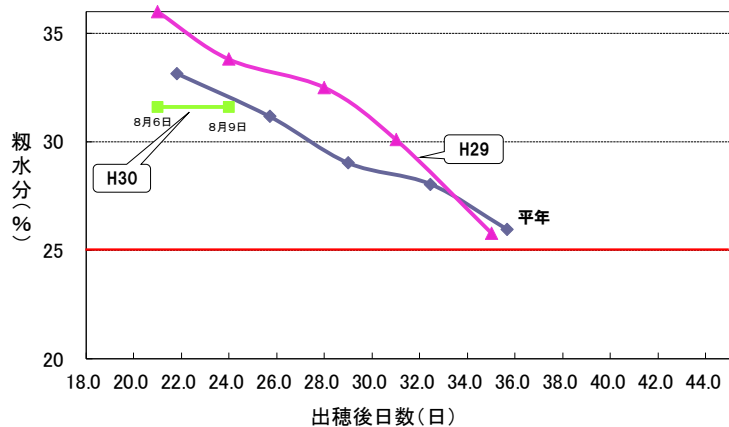
稲作情報 No.14

〔8月9日水稲登熟状況〕

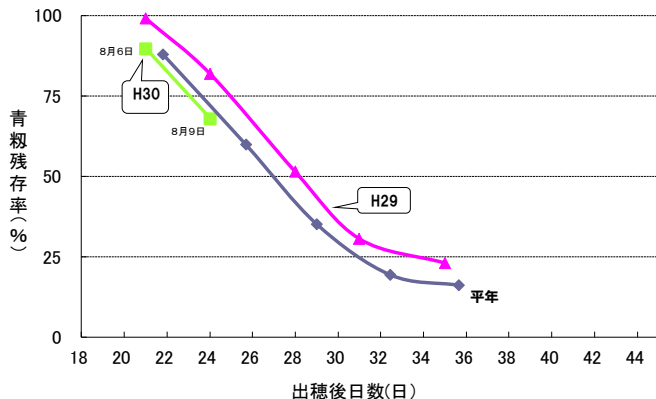
水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、福井米戦略課、組合員トータルサポートセンター、JA経済連、主要農作物振興協会）
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2018inasaku.html>

- ・**間断通水を収穫直前まで続け、根の活力維持を図りましょう。**
- ・**圃場田面の乾き具合は入水側と排水側両方を確認しましょう。**
- ・**籾水分を測定して適期収穫に備えましょう。**

【農試におけるハナエチゼンの籾水分】



・農試ハナエチゼンの籾水分は降雨により前調査から低下しなかった。青籾残存率は平年並みに経過している。

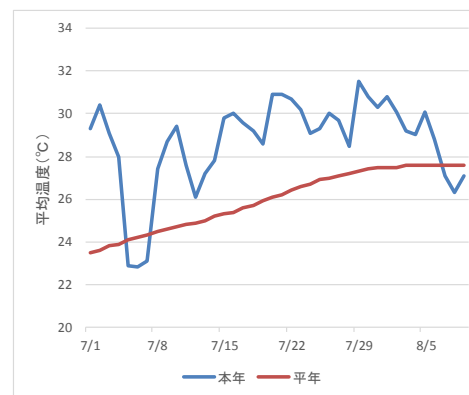


【農試における出穂期以降の積算気温に基づく収穫期予想】

ハナエチゼン(5月2日植)	出穂期	7月16日
	積算気温860°Cに到達する日	<u>8月15日</u>
コシヒカリ(5月21日植)	出穂期	7月29日
	積算気温990°Cに到達する日	<u>9月4日</u>

上記は今後平年並の気温で経過することを前提に算出。今後の気象条件等で変動するので、これを目安に籾水分等を確認して刈取日を決定する。

【7月以降の平均気温(福井)】



・7月に入ってからかなり高温で推移している。

【今後の栽培管理】

栽培管理	管理方法
<p>間断通水で登熟向上 適期収穫で胴割れ防止</p>	<p>【ハナエチゼン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫直前まで間断通水を実施し根に酸素と水分を供給する。収穫直前まで圃場の土が白く乾かないようにする。圃場が軟弱な場合は徐々に土を硬くするように努める。排水側の乾き具合も確認して入水を判断する。 ・ 各地域の出穂後の積算温度から成熟期を大まかに予測する（ハナエチゼンの成熟期は出穂後の積算温度でおおよそ860℃）。 ・ 予測に基づき圃場ごとの籾水分調査を行う。圃場条件（土質や葉の枯れ上がり、倒伏状況）を考慮した収穫順序を考える。 ・ <u>葉色が淡い、穂が小さい、籾数が少ない</u>と早く籾が黄化する傾向にある。圃場の土壌条件（土質、地力、水持ち等）や葉色の推移、<u>下葉の枯れ上がり、成熟期直前の降雨</u>に留意し、適期刈取により胴割れ防止に努める。 ・ 収穫後は、<u>わらの腐熟促進と漏生籾の発生防止</u>のため早めに秋起しを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注意！ 秋起しはハナエチゼンの圃場もコシヒカリ収穫後に行う場合が多い。 ハナエチゼン圃場のヒコバエが実って翌年に漏生籾が発生する事例が発生している。</p> </div> <p>【コシヒカリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫直前まで間断通水を実施し根に酸素と水分を供給する。収穫直前まで圃場の土が白く乾かないようにする。圃場が軟弱な場合は徐々に土を硬くするように努める。排水側の乾き具合も確認して入水を判断する。 ・ <u>フェーン現象や強風の日</u>は終日深水管理とする。これらが治まったら直ちに落水する。 ・ 直播栽培では、根域が浅いので表面の土の乾燥に特に注意する。 ・ 各地域の出穂後の積算温度から成熟期を大まかに予測する（コシヒカリの成熟期は出穂後の積算温度でおおよそ990℃）。 ・ 予測に基づき圃場ごとの籾水分調査を行う。圃場条件（土質や葉の枯れ上がり、倒伏状況）を考慮した収穫順序を考える。 ・ <u>葉色が淡い、穂が小さい、籾数が少ない</u>と早く籾が黄化する傾向にある。圃場の土壌条件（土質、地力、水持ち等）や葉色の推移、<u>下葉の枯れ上がり、成熟期直前の降雨</u>に留意し、適期刈取により胴割れ防止に努める。 ・ カメムシ類の発生は平年よりやや多い。カメムシ防除を地域ぐるみで適期に行う。<u>斑点米の発生が毎年多い地域では</u>収穫14～7日前にも防除を行う。コシヒカリの周辺にハナエチゼンがある圃場で防除する場合は、ハナエチゼンの収穫時期に注意が必要である。 <p>【その他の品種の成熟期を予測する積算温度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イクヒカリ 990℃ ・ あきさかり 1070℃ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">一つの水田で入水側は十分湿っていても・・・排水側は相当乾いている</p>

【生育調査結果】

		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり		
		農試	坂井農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井農場	現地
		移植 5/1	移植 5/1	移植 4/27	移植 5/21	直播 5/10	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/17	直播 5/2	移植 5/16	直播 5/6	移植 5/1	移植 5/15	移植 5/10
幼穂 形成期	本年	6/27	6/27	6/25	7/12	7/17	7/8	7/13	7/10	7/10	7/11	7/11	7/9	7/13	7/11
	平年	6/27	6/27	6/28	7/12	7/16	7/10	7/16	7/12	7/15	7/15	7/12	7/9	7/14	7/11
出穂期	本年	7/16	7/15	7/15	7/29	8/5	7/29	8/4	7/29	—	8/1	8/4	7/27	8/3	8/1
	平年	7/19	7/18	7/20	8/1	8/7	8/2	8/7	8/2	8/5	8/7	8/3	8/2	8/6	8/2

【農試気象対策試験における出穂期の止葉の葉色（SPAD値）】()は平年比

年	ハナエチゼン	コシヒカリ	あきさかり
30年（SPAD）	35. 5(95)	35. 8(104)	33. 1(99)
29年（SPAD）	35. 6	35. 8	36. 2
28年（SPAD）	35. 2	32. 1	33. 0
27年（SPAD）	34. 8	36. 2	31. 6

暑い日が続く水田の水管理は大変ですが、もうひと踏ん張りしていただいて、稲にも活力を与えてあげてください。

大豆

作業	作業の注意点												
病害虫防除	<ul style="list-style-type: none"> ・紫斑病と組み合わせて適期防除に努める。朝夕風のない時間帯に、薬剤が莢に充分付着するよう散布する。 												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="401 262 772 311">病害虫</th> <th data-bbox="772 262 1984 311">防除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="401 311 772 359">ウコンノメイガ</td> <td data-bbox="772 311 1984 359">発生量は昨年並み。葉が巻き始める7月下旬～8月はじめに防除する</td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 359 772 408">紫斑病</td> <td data-bbox="772 359 1984 408">発生量は平年並み。開花20～35日後(8月10日～25日)に防除する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 408 772 456">シロイチモジマダラメイガ</td> <td data-bbox="772 408 1984 456">若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 456 772 596">フタスジヒメハムシ</td> <td data-bbox="772 456 1984 596"> 第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="401 596 772 731">カメムシ類</td> <td data-bbox="772 596 1984 731"> 圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降に防除を行う。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭以上いる場合は防除を行う。〕 </td> </tr> </tbody> </table>	病害虫	防除	ウコンノメイガ	発生量は昨年並み。葉が巻き始める7月下旬～8月はじめに防除する	紫斑病	発生量は平年並み。開花20～35日後(8月10日～25日)に防除する。	シロイチモジマダラメイガ	若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。	フタスジヒメハムシ	第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕	カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降に防除を行う。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭以上いる場合は防除を行う。〕
	病害虫	防除											
	ウコンノメイガ	発生量は昨年並み。葉が巻き始める7月下旬～8月はじめに防除する											
	紫斑病	発生量は平年並み。開花20～35日後(8月10日～25日)に防除する。											
	シロイチモジマダラメイガ	若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。											
	フタスジヒメハムシ	第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。 〔要防除水準は、8月下旬(第2世代成虫発生盛期)に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合には直ちに防除する。〕											
カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大期(8月下旬)以降に防除を行う。 〔要防除水準は、8月下旬(圃場侵入期)は100個体当たり0.3頭以上いる場合は防除を行う。〕												
<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤は最寄りのJAで取扱いの薬剤を御確認ください。 													

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報 → 稲作情報システム

②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択

③生育状況、収量、品質のグラフを表示

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

8月10日5時 福井県の週間天気予報

日付	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水	16 木	
福井県	曇	曇のち晴	曇時々晴	晴時々曇	晴時々曇	曇時々晴	曇	
降水確率(%)	~/30/20/10	20/10/20/10	40	30	30	30	40	
信頼度	/	/	C	C	C	C	C	
福井	最高(°C)	32	33	35 (33~37)	35 (31~37)	34 (32~37)	34 (30~36)	33 (30~37)
	最低(°C)	/	25	26 (24~28)	27 (25~29)	27 (24~28)	26 (24~28)	25 (23~27)

【天気予報】

【メールマガジン e農メール】

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス